

令和 4 年 10 月 26 日

令和 5 年度保険料率に関する評議会における意見 (東京支部)

(令和 4 年 10 月 17 日開催 東京支部評議会)

【評議会の意見】

- ・ 平均保険料率 10%を「維持するべき」という意見で一致したことから、東京支部評議会としては平均保険料率 10%維持とする。
- ・ 保険料率の改定時期については、「4 月納付分」から変更とする。

【評議員の個別意見】

(学識経験者)

- ・ 医療費の伸び等について先を見据える場合、基準になるものがないように思われる。そういった状況下で仮に保険料率を上げることになった場合、加入者及び事業主の納得性は低いと思われる。

(事業主代表)

- ・ まずは本当の経済がどう回っているかを改めて議論してほしい。シミュレーションの下で平均保険料率を議論するのであれば、国から今後の経済見通し等を示してほしい。そういった経済見通しを持っているのか一度示していただかないと、平均保険料率についてしっかりした議論はできない。
- ・ 協会けんぽへの国庫補助について、当面 16.4%ということになっているが、法律上は 20%まで引き上げることができるとされている。それについての議論が最近は一切されていない。今の経済状況を踏まえ、国庫補助率の引き上げについても議論していただきたい。
- ・ これまで準備金は積み上がってきたが、消えるときはあっという間に消えてしまう。積み上がったから良いという話ではなく、どこまで積み上げてどこまで取り崩すのかというのをきちんと議論しないといけない。
- ・ 事業主代表の立場としては、かなり厳しい状況にあるという意見である。中長期的な視点に立ったとしても、今回は局所的に対応しなければならないと考えている。東日本大震災時に匹敵するぐらいの状況になりつつあるのでないかと大変危機感を持っている。コロナ融資の返済が開始されることも合わさって、令和 5 年度は保険料率の改定と併せたダブルパンチになる可能性がある。

運送業界は資材の高騰等も合わさってかなり苦しんでおり、この状況をオールジャパンで乗り越えるためにも、国がしっかりとした姿勢を見せないとその先大変なことが起こるのではないかと危惧している。また、負担が増える場合は、加入者が納得できるような文書の書き方や見せ方など、工夫できるところもあると思うので考えてほしい。

(被保険者代表)

- ・令和3年度決算を足元とした収支見通しについて、前提条件の1つである賃金上昇率の値はかなり不透明な数値だと思う。物価上昇分等を考慮した場合、数値としては低いように思える。